

古文ドリル：「ね」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「ね」の正体（5パターン）

古文の「ね」には大きく **5種類** あります。「ぬ」とセットで覚えると識別がぐっと楽になります。

種類	接続/品詞	活用形	例
① 完了の助動詞「ぬ」 命令形「ね」	連用形接続	命令形	早く行き ね （行ってしまえ）
② 完了の助動詞「ぬ」 已然形「ね」	連用形接続	已然形	来 ね ば（来てしまったので／来てしまったところ）
③ 打消の助動詞「ず」 已然形「ね」	未然形接続	已然形	知ら ね ば（知らないので）
④ ナ変動詞「往ぬ」「死ぬ」 命令形	ナ変動詞	命令形	疾く往 ね （早く行け）／死 ね
⑤ 下二段動詞「寝（ぬ）」 未然形・連用形	下二段動詞	未然/連用	寝（ね） ば／ 寝（ね） にけり

識別の鉄則

1. **直前**の語の活用形を見る
 2. 連用形＋「ね」→完了「ぬ」（命令形 or 已然形）
 3. 未然形＋「ね」→打消「ず」（已然形）
 4. **直後**を見て命令形か已然形かを判別
 5. 文末（句点・終止）→命令形「行き**ね**。」
 6. 「ば」「ど」「ども」が続く→已然形「行き**ね**ば」「知ら**ね**ど」
 7. **打消と完了已然形の見分け**
 8. 「ね」の前が **未然形** なら打消、**連用形** なら完了已然形
 9. 例：「知ら**ね**ば」（未然＋ね＝打消）／「来**ね**ば」（連用＋ね＝完了）
 10. **ナ変命令形**は「往**ね**」「死**ね**」の形で出る（一語動詞の語尾）
 11. **下二段「寝（ぬ）」**は「ね」が **未然形・連用形** に当たる。「眠る」の意で文意が通れば下二段
- 最初の20問はこの5パターンの基礎、後半に進むにつれて「ね」の前後にさらに助動詞・係助詞が絡む応用問題、さらに難関大の実戦問題へとレベルが上がります。

🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「ね」を見たら **まず直後の1文字** を見る

- 直後が **句点 (。)** or **終わり** → 命令形 → ほぼ完了「ぬ」命令形 or ナ変命令形
- 直後が **「ば／ど／ども」** → 已然形 → 完了「ぬ」已然形 or 打消「ず」已然形
- これで5パターンが **「命令系3つ／已然系2つ」** に瞬時に二分される。

コツ② 「～ねば」と来たら **前1文字の母音** で即決

- 前がア段 (知ら**ね**ば／言は**ね**ば) → **未然形+ね** → **打消「ず」** 確定
- 前がイ段 (来〔き〕**ね**ば／行き**ね**ば) → **連用形+ね** → **完了「ぬ」** 確定
- 「ねば」の8割はこれで片付く。考える前に母音を見ろ。

コツ③ 「往ね」「死ね」が見えたら **それだけで終了**

- 「往ぬ」「死ぬ」はナ変。「往ね」「死ね」は **一語の動詞の命令形**。
- 前後の活用判定はいらない。形を見た瞬間に答えを書く。

コツ④ 「寝(ね)にけり／寝(ね)て」は下二段「寝」

- 「眠る」の意味で訳せて、直後が「にけり／て／たり」など連用形接続 → 下二段「寝(ぬ)」連用形「ね」。
- 文意で「眠る」が通るかどうかなだけ確認すればOK。

試験本番でのチェック順序

1. 「往ね」「死ね」かどうか見る (YES → ナ変命令で終了)
2. 直後を見る (句点なら命令、「ば／ど」なら已然)
3. 已然なら **前の母音** を見る (ア段=打消、イ段=完了)
4. 文意「眠る」が通れば下二段「寝」

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「来**ね**ば」の「来」を未然形「こ」と勘違いして打消にしてしまう → 「き」と読むので連用形=完了
- 「出で**ね**ば」は「出づ」が下二段で未然形・連用形同形。文意「出ないので」で打消と判断

- 「寝 (ね)」を「ね」だけで判別しようとして失敗する → 必ず文意「眠る」を確認する

採点表

各セクション末に空欄を残してあります。最後にトータルで「100点満点中何点取れたか」を記録してください。

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

5パターン (完了命令・完了已然・打消已然・ナ変命令・下二段「寝」) をただ識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

早く行き**ね**。

Q2. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知ら**ね**ば、答へず。

Q3. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

月出で**ね**ば、暗し。

Q4. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

疾く往**ね**。

Q5. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来ねば、待ちわぶ。

Q6. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

静かに寝(ね)にけり。

Q7. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

言はねば、知らず。

Q8. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

早く帰りね。

Q9. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

死ねと言ふ。

Q10. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思はねど、口に出す。

Q11. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

春来(こ)ねば、花咲かず。

Q12. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

行か**ね**ば、ここに居る。

Q13. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

露置き**ね**。

Q14. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

我れ寝**ね**ば、夢を見ず。

Q15. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

待たれ**ね**ば、来べし。

Q16. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

御供仕うまつり**ね**。

Q17. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

月隠れ**ね**ば、なほ明し。

Q18. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

物言は**ね**ども、目に物言ふ。

Q19. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねにけり。

Q20. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知りね。

基礎編 / 20

【第2部】 標準編 (Q21~Q50)

「ね」の後に別の助動詞・係助詞が続くパターン、ナ変動詞、下二段「寝」の活用、係り結び絡みを増やします。

Q21. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

雨降りねば、行かず。

Q22. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来ねかし。

Q23. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねど、答ふ。

Q24. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

死ねよ。

Q25. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

よく寝ねばこそ、頭痛し。

Q26. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

急ぎ往ね。

Q27. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思はねばこそ、口に出さね。

Q28. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

人来（こ）ねば、独りなり。

Q29. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

問へど答へねば、いと怒れり。

Q30. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

死ねかし。

Q31. 次の傍線部「な」を識別せよ。

我れ帰りなばや、と思ふ。

Q32. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねばこそ夢見ね。

Q33. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねば、人に問ふ。

Q34. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

早く立ちね。

Q35. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

物言はねこそ、奥ゆかしけれ。

Q36. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

春過ぎて夏来ねど、暑し。

Q37. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねな。

Q38. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

行かねばこそ、止む。

Q39. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

露置き**ね**かし。

Q40. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝**ね**たり。

Q41. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

物食は**ね**ば、痩す。

Q42. 次の傍線部「ぬれ」を識別せよ。

死**ぬれ**ども蘇る。

Q43. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

帰ら**ね**ば、と問ふ。

Q44. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

急ぎ来**ね**。

Q45. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

言は**ぬ**にしも、自づから知らる。

Q46. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねば、目覚めず。

Q47. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

仕うまつりねかし。

Q48. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねばや。

Q49. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

行かねば、留まる。

Q50. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

急ぎ立ちねかし。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

「ね」の前後に複数の助動詞、敬語、和歌、係り結び、引用構文が絡む応用問題。助動詞の接続表と活用表をしっかりと頭に入れたうえで取り組んでください。

Q51. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

風吹かねば、波立たず。

Q52. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

月隠れねば、なほ明けず。

Q53. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

春来ねば、花咲く。

Q54. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

雪降りねば、白し。

Q55. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

我が思ふこと言はねど、知らる。

Q56. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

帰りねかし、と思ふ。

Q57. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

道知らねば、迷ひぬ。

Q58. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

心知らねばや、と問ふ。

Q59. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

早く起き**ね**。

Q60. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝**ね**ばよかりしものを。

Q61. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

物言は**ね**こそありけれ。

Q62. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

月待た**ね**ども、出でぬ。

Q63. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来**ね**ば、待つ。

Q64. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

雨止み**ね**ば、出づ。

Q65. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思ひ寄ら**ね**ば、答へず。

Q66. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

いざ往ね。

Q67. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

待たれねば、自ら来。

Q68. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

露置きねばこそ、葉の青し。

Q69. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知りねかし。

Q70. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

心慰めねば、悲しさ消えず。

Q71. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねばこそ、月見つれ。

Q72. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

物食はねど、太れり。

Q73. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

早く帰りねかし、と母言ふ。

Q74. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねぬる人。

Q75. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思はねば、口に出さず。

Q76. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

死ねとのみ言ふ。

Q77. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

言はねど、心に思ふ。

Q78. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

急ぎ往ねかし。

Q79. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

雨降りねば、川あふる。

Q80. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねばや、と思へど、寝られず。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

実際の大学入試（共通テスト・難関私大・国公立二次）レベル。文章中の傍線部「ね」を識別し、必要に応じて全体の意味も解釈してください。

Q81. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。毛のよく抜くる銀の毛抜き。主そしらぬ従者。

Q82. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来ねば、なほ待つ。

Q83. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

月は隈なきをのみ見るものかは。雨に向かひて月を恋ひ、垂れこめて春の行方知らぬも、なほあはれに情け深し。

Q84. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人ありやしやと（伊勢物語）——この歌を聞き、舟こぞりて泣きにけり。さながらしらせ給はねば、なほ船人みな涙にむせぶ。

Q85. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

もの隔てて聞けば、宮の御方より、御文奉り給ふ。「いとあやしき御使ひかな。早く帰りねかし。」と仰せらる。

Q86. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

風吹けば沖つしらなみたつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ——この歌は、伊勢物語にもみえ、人々の口の端にのぼれども、その心知らねばこそ、ただ風雅とのみ思ふらめ。

Q87. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

夜半にやひそかに往ねと仰せられければ、御簾の内よりしのびて出でぬ。

Q88. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

心のうちに思ふことども、人に知られねばこそ、なほ深く悩むなれ。

Q89. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

我もまたかかる病にかからむことを知らねば、人ごととばかり思ひみたるなり。

Q90. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

寝ねばこそ、心は澄み渡れ。

Q91. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

内裏より召しありければ、御供仕うまつりねと命じ給ふ。

Q92. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

月の出でぬ夜は、なほさうごうし。隈なき月のかげに照らされねば、人の心の奥も見えず。

Q93. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

早く立ちね、と道行く人を急がし給ふ。

Q94. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

我が宿は道もなきまで荒れにけりつれなき人を待つとせし間に——この歌、心ある人にあらねば、なかなかかなしき深く感ぜず。

Q95. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

いみじき宿世の人にしあらねば、かかる目にも遭はぬなり。

Q96. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

春は名のみ風の寒さや。谷の鶯歌は思へど、時にあらねばこそ、声を立てね。

Q97. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

笛の音絶えねば、なほ夜更けず。

Q98. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるる（古今和歌集）

Q99. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に尋ね入ること侍りしに、(中略) 住む人のあらねばこそ、かくは荒れたれ。

合計 / 100

あとがき

「ね」の識別は「ぬ」とセットで覚えるのが鉄則です。 - 連用形+「ね」 → 完了「ぬ」(命令形 or 已然形) - 未然形+「ね」 → 打消「ず」(已然形) - 「往ね」「死ね」は一語のナ変動詞命令形 - 「ね」が下二段「寝(ぬ)」「眠る」の未然形・連用形になる場合は文意で判断

接続が見えれば、9割は識別できます。残り1割は「来(き/こ)」のように音だけでは判別できないものや、係り結び・引用の絡む応用問題です。本ドリル100問で土台を固めてください。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太 お問い合わせ：[フィット公式サイト](https://kotenosensei.com)